



リーダー研修会

地域防災の実践

みんなの
防災 

● 対象者

- 地域防災リーダーになりたての方
- 改めて地域防災リーダーとしての活動を学びなおしたい方



【目的：災害時に】
リーダーシップ
発揮！

● 目的

● 災害時にリーダーシップが発揮できるようになること

【目標】
平常時に何に取り
組むか？

● 学ぶこと

- ✓ 災害時のリーダーシップ発揮のために平常時にリーダーシップをとりつつ、何にどうやって取り組むべきかを学ぶ



本日のメニュー

1 地域防災リーダーの必要性と役割

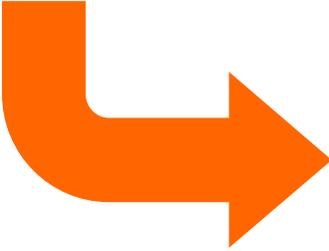
なぜ重要？

2 リーダーシップをとるコツ

どんなことを意識すべき？

3 平常時にリーダーが率先すべき活動

具体的には、何をすればよいの？

- 
- 目指すリーダー像？
 - 明日から何を始める？

地域防災リーダーの必要性と役割

- ① 自助・共助・公助と地域防災リーダー
- ② 共助における地域防災リーダー
- ③ 災害時のリーダーの役割



目指すリーダー像(平常時・災害時)

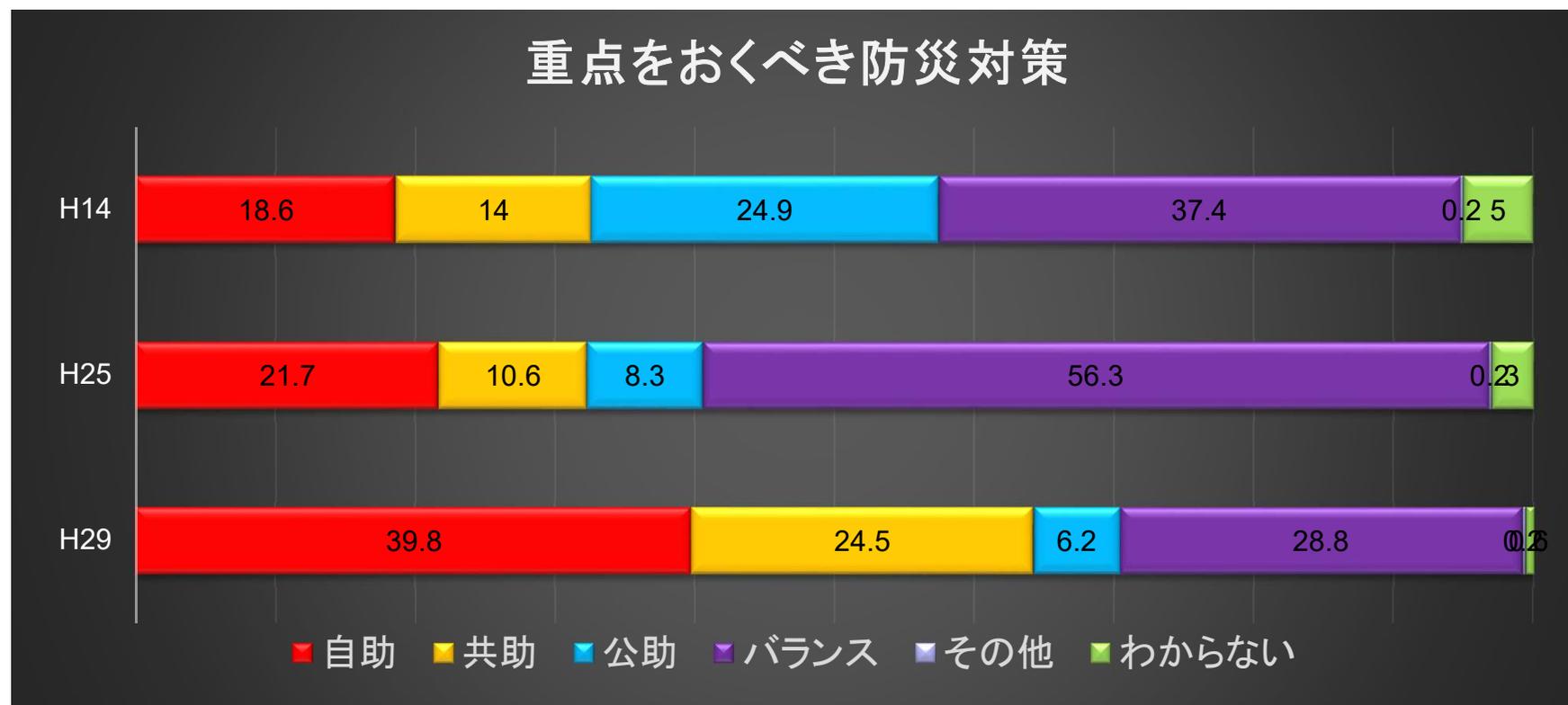
自助・共助・公助への国民意識

● 世論調査の結果

- 公助の占める割合が4分の1
- 自助に対する防災意識が年々増加
- H29では、自助・共助で6割以上を占める



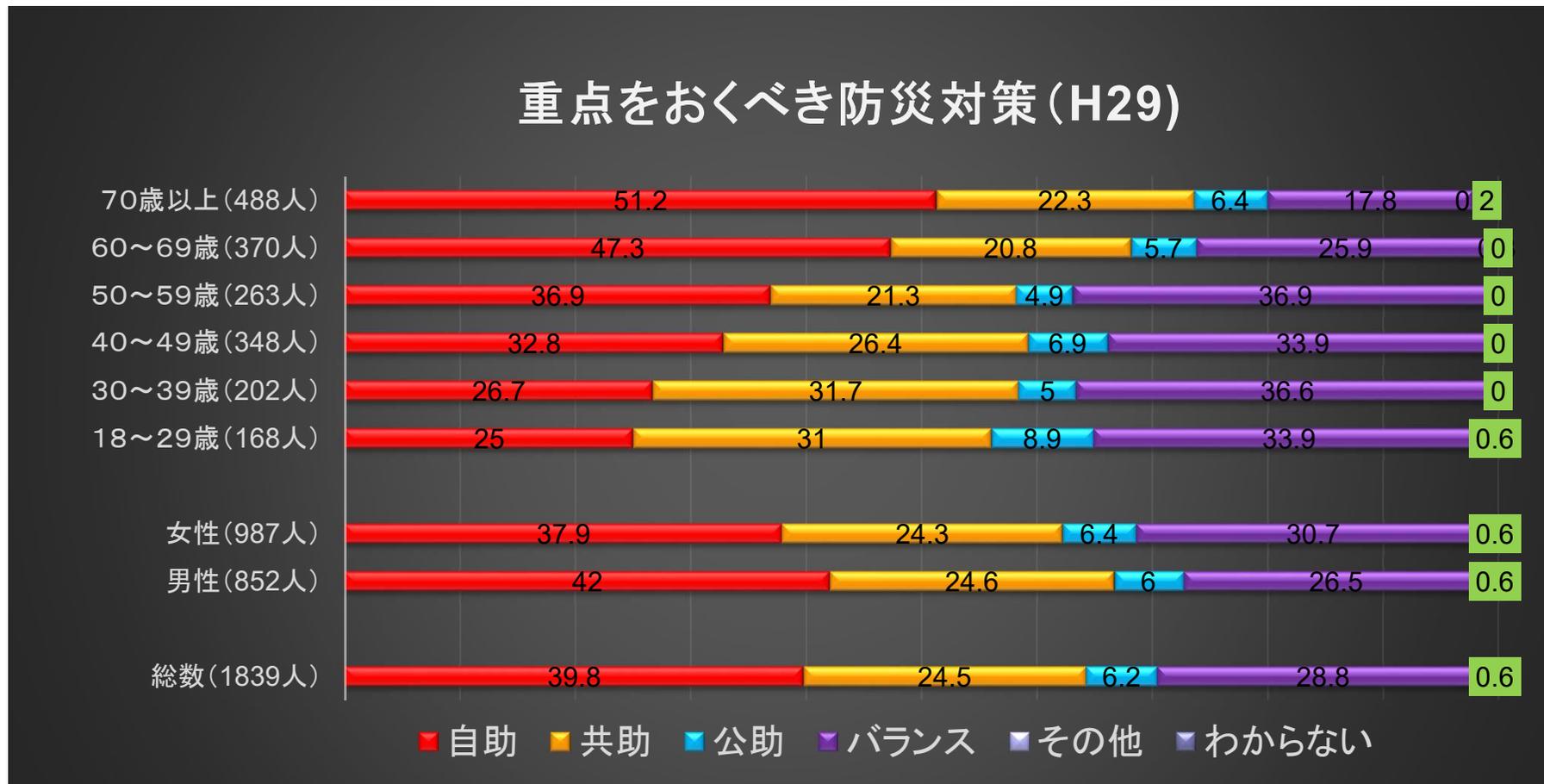
「公助」中心の対策から、国民自らも参加する防災対策へ



自助・共助・公助への国民意識

● 世論調査の結果

- 年配者の方が自助に対する意識が高い
- 年齢層で意見が分かれる
- 男女の意見差は、ほとんどない



自助について

防災における意味

- 自助：自分で自分を助けること

日常生活時における意味

- 自助：自分自身の快適な生活環境を守り
心身を健全に保つために活動する

自助→共助→公助の「順番」が大切

自分を愛し、自分を認め、自分を癒す

Work One

行っている防災対策

行いたい防災対策

2分間

阪神淡路大震災を振り返る



地震によってこんな被害が起こります

一戸建て

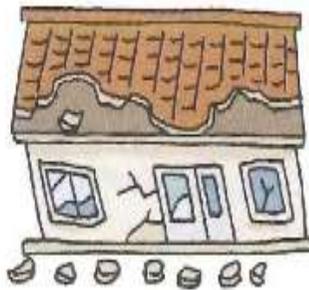
古い平屋建ての倒壊



1階部分の崩壊



かわらの落下



外装材の落下

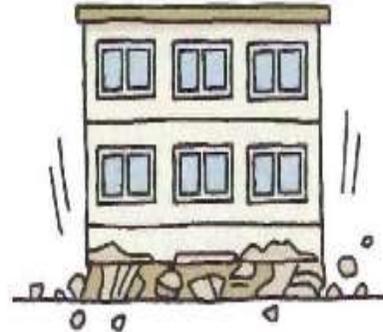


ビル・マンション

ピロティ[※]の崩壊



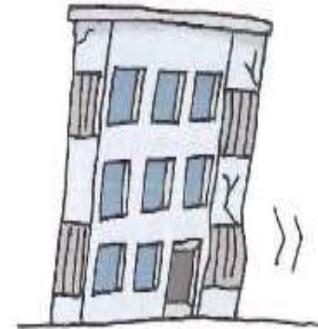
1階部分が崩壊する



柱に斜めにひび割れ



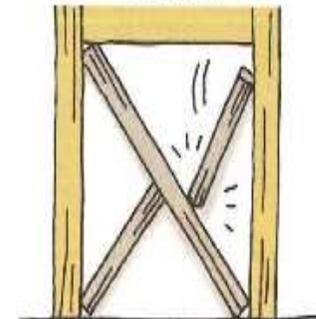
建物が大きく傾く



はり
柱・梁接合部の
破断



補強ブレース(支柱)
の破断



※1階が駐車場や玄関など壁が少なくなっている部分のこと

家の中の安全対策

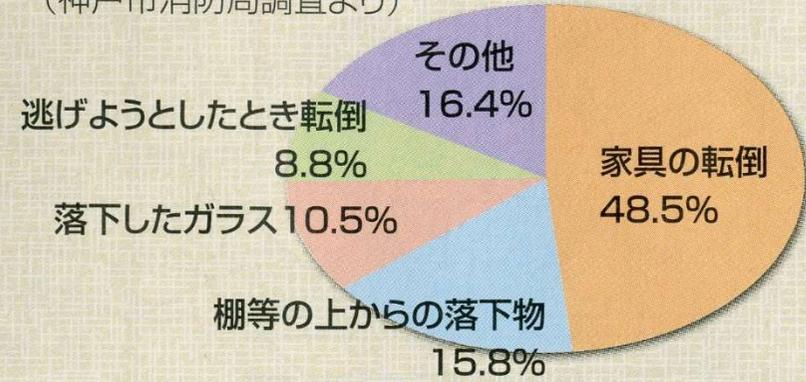
防災 チェックポイント

家具が転倒するとどうなるの？

建物が無事でも家具が転倒すると、その下敷きになってけがをしたり、室内が散乱することにより逃げ遅れてしまう場合があります。家庭での被害を防ぎ、安全な逃げ道を確保するためにも、家具の転倒・落下防止対策を実践しておきましょう。



■阪神・淡路大震災でけがをした人の原因
(神戸市消防局調査より)



防災 チェックポイント

寝室や出入り口付近で家具を固定できない場合には



寝ている位置に家具が倒れてこないように、向きを工夫する



自分の上に家具が倒れてこないように、机などで防御する

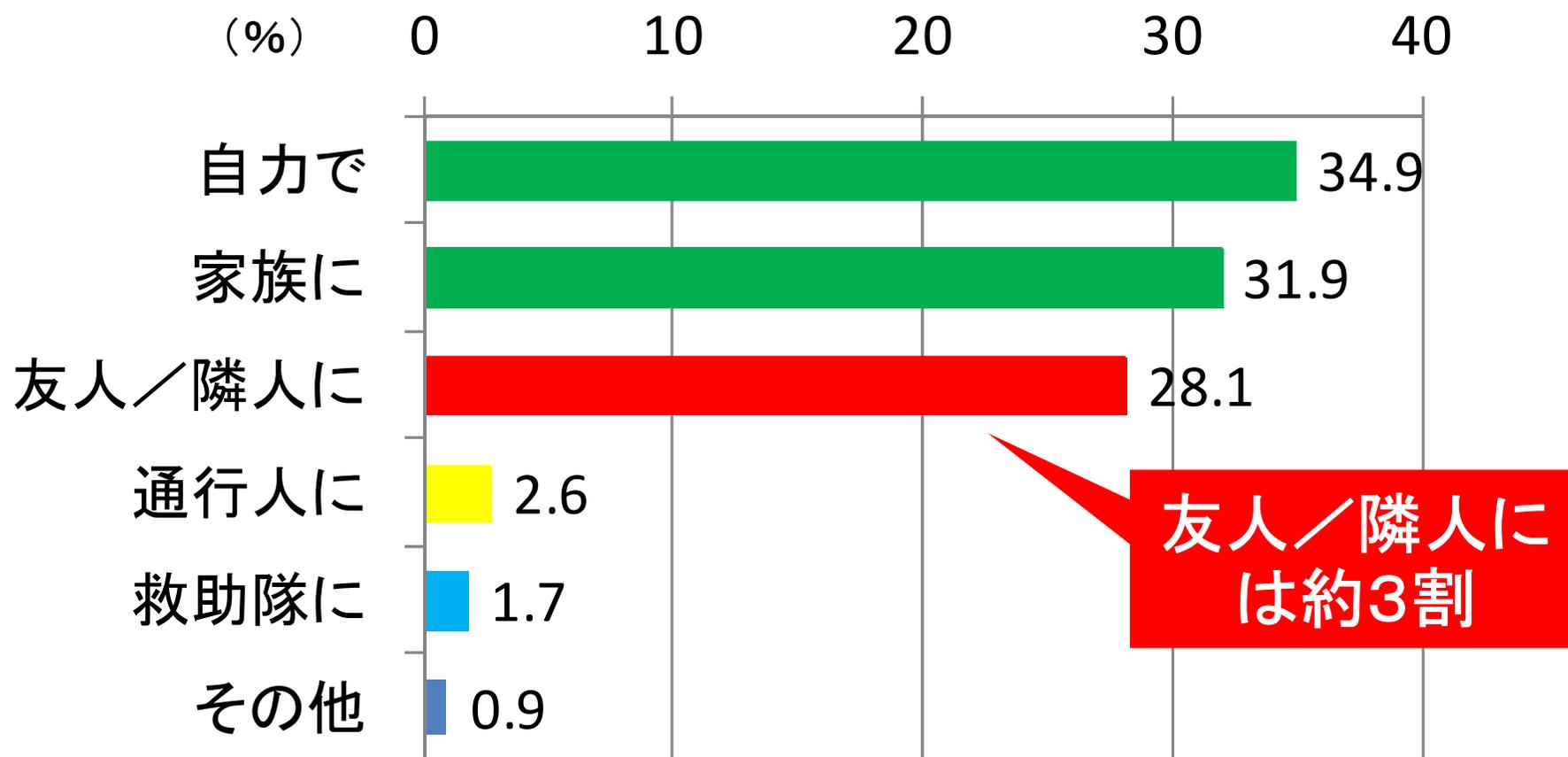


家具が倒れてもドアが開くような位置・向きにする

共助の必要性

● 阪神・淡路大震災における救助活動

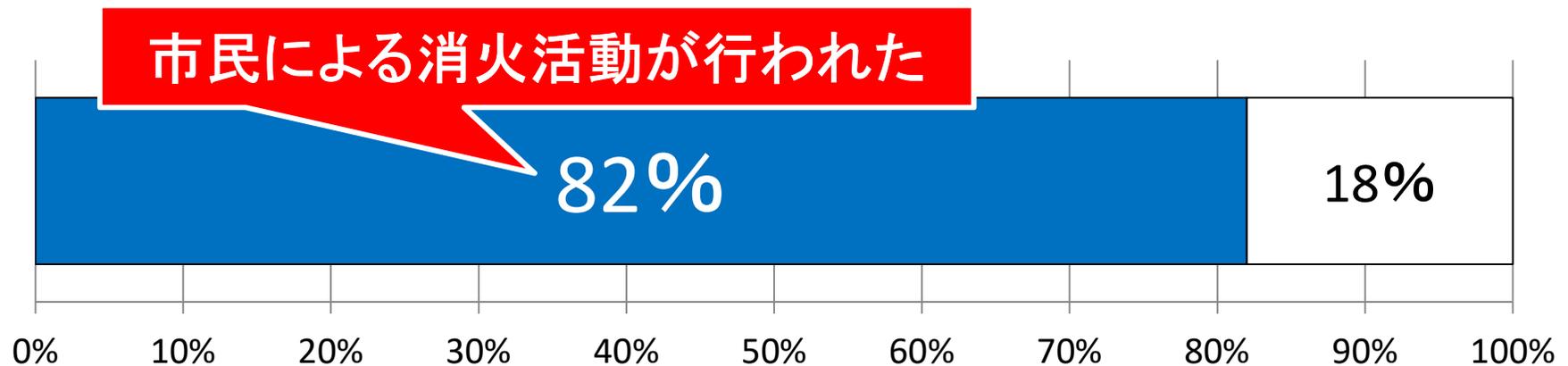
- ✓ 倒壊家屋からの救助のうち、友人/隣人と回答したのは約3割



共助の必要性

● 阪神・淡路大震災における消火活動

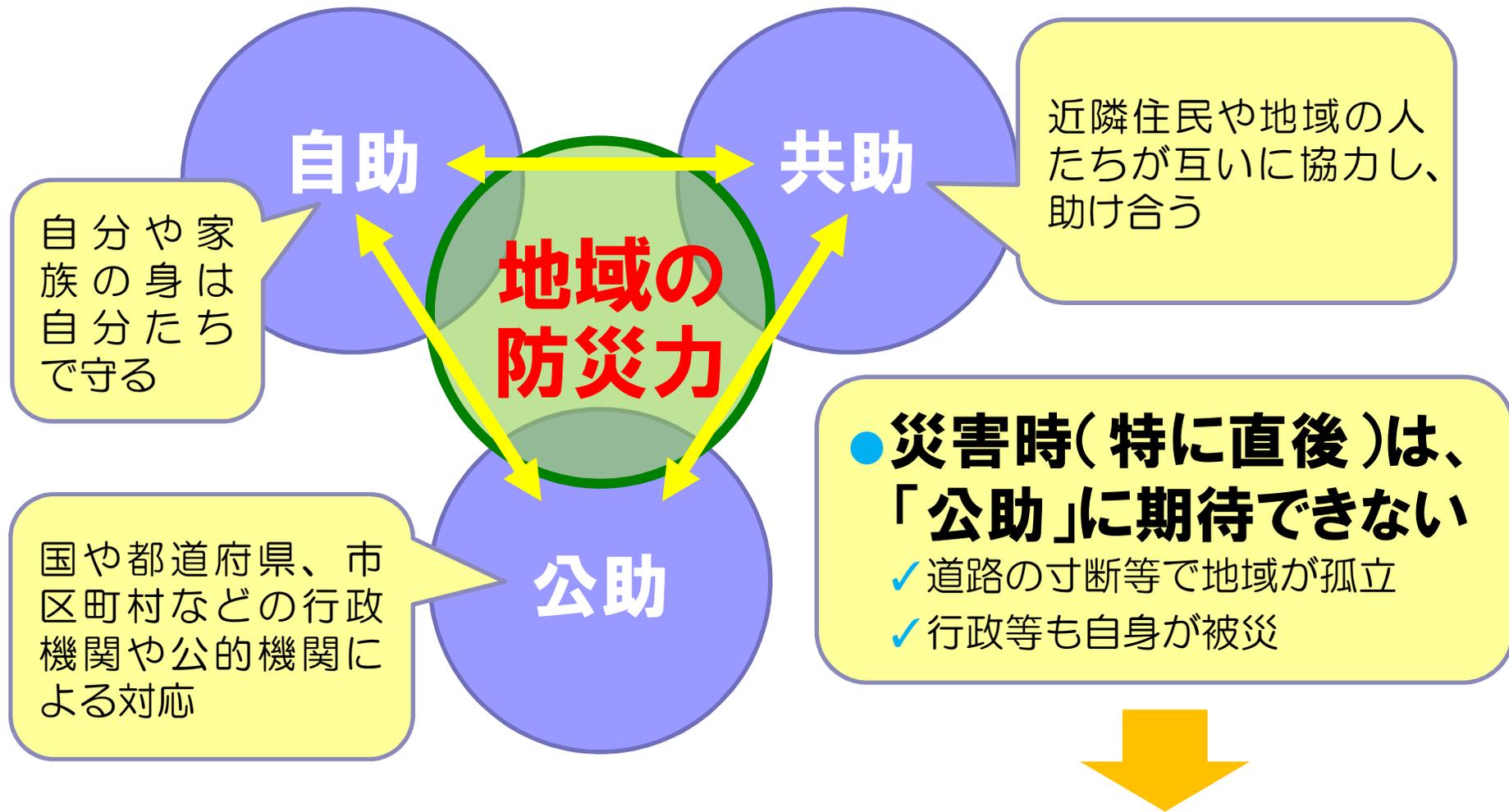
- ✓ 神戸市内で市民消火活動の有無が判明した現場94件中、市民による消火活動が行われたのは約8割（77件）



● 阪神・淡路大震災における地域による消火活動事例

長田区西代市場火災	自治会リーダーの呼びかけで 200人以上 のバケツリレー倒壊家屋を動かし延焼防止
東灘区御影西町火災	子供を含む 約300人 がバケツリレー
長田区東尻池町火災	近隣企業からポンプ、ホースなどの提供を受け、活用

自助・共助・公助と地域防災リーダー



- (特に直後は)共助による災害対策が重要
- その活動の中核となるのが、地域防災リーダーの役割

災害時のリーダーの役割

- 1) 被害情報収集を指示し、被害状況を把握する
- 2) 防災組織としての活動の方針を決定し、活動内容を指示する
- 3) 組織の活動状況を把握し、必要に応じて活動の修正を図る
- 4) 行政、他の地域組織、ボランティアとの連携を図る
- 5) 復興のため、地域の意見集約や合意形成を図る

共助における地域防災リーダー

平常時

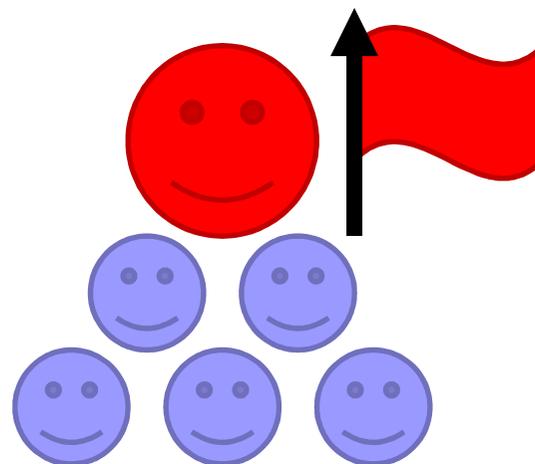
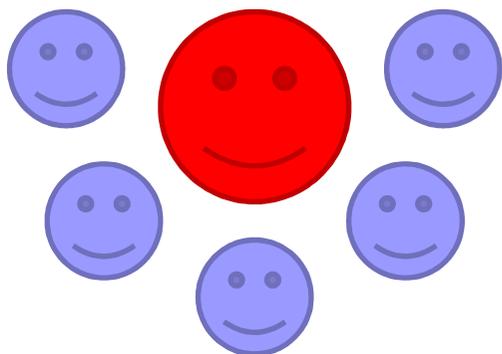
災害
発生

災害時

平常時から、リーダーとして地域で中心となり活動することで…



災害時、地域住民の先頭に立って、地域の防災活動を主導していくことができる



目指すリーダー像

平常時

災害発生

災害時

平常時

- 防災に関心を持つ(災害対策の経験があればなお良い)
- 行動力がある
- 自己中心的でなく、地域住民全体のために考える
- 多数意見を取りまとめ、また、少数意見を尊重する

災害時

- 非常時の現場の状況をとりしきる
- 周囲に声をかけ、災害対策活動に協力を求める
- 応急対策活動や避難所運営、地域の復興の進め方など防災活動に関する知識や知恵を活用する

リーダーシップをとるコツ

①リーダーという立場を
最大限利用しよう

⑥役割を分担しよう

②楽しく活動
しよう

リーダー
シップを
とるために！

⑤地域防災に
参加する人を
育てよう

③仲間(3人程度の
協力者)を作ろう

④地域住民とコミュニ
ケーションを図ろう

リーダーシップをとるコツ①

- 地域に認められた「地域防災リーダー」ということの認識と自信を持つ
- リーダーの立場を最大限利用することを考える

<例えば...>

【地域の住民に対して】

- ・ 防災活動等への参加を積極的に声をかける

【行政や他の地域組織に対して】

- ・ 組織同士という立場で話し合いや協力を依頼する

リーダー
だからこそ
できること！



リーダーシップをとるコツ②

- 活動が活発な団体には、みんなが楽しんで活動している事例が少なくない
- 楽しく活動することにより...
 - ✓ 活動の達成が得られ、次の活動への意欲がわく
 - ✓ 参加する住民の輪が広がる
- 「楽しく」をキーワードに活動していくことを考えてみる
 - ✓ 地域のイベントを活用して「防災」を入れ込む
 - ✓ コンクール、ゲーム、映画会など訓練やイベントを楽しめる工夫を取り入れる



リーダーシップをとるコツ③

×

リーダー一人で、組織運営や災害対策活動の指揮を行うのは、負担が大きく、無理



○

組織運営で協力してもらえる仲間(3人程度の協力者=役員の立場)を作ることが重要



仲間がいることで、

平常時には、組織運営や活動の指示などで相談や役割分担ができる

災害時には、リーダー不在時でも、代わりに地域の防災活動の指示ができる

仲間の中に女性の参画を！

リーダーシップをとるコツ④

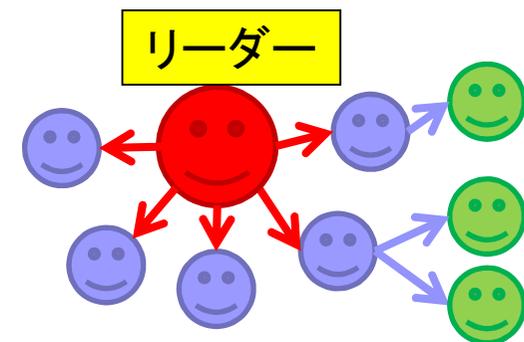
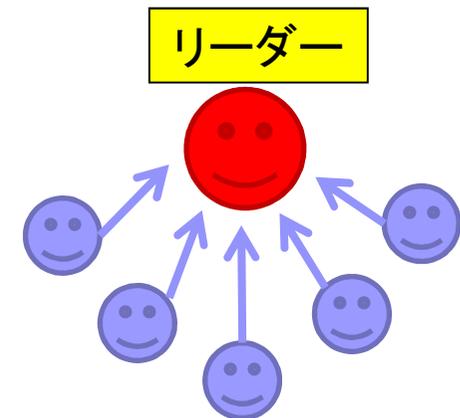
● 平常時から「地域に『顔』を売っておく」

- ✓ 地域住民に自分が地域防災リーダーであることを知ってもらおう

- リーダーは全住民を知ることは不可能だが、全住民がリーダーはだれか理解することは可能

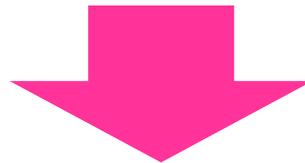
- ✓ 地域住民を知ることで、地域の人的なネットワークを広げる

- 地域の活動では「顔の見える関係」が重要！
- 活動する上で役立つ資格やスキルを持った人材を探しやすくなる



リーダーシップをとるコツ⑤

- **楽しい訓練やイベントを企画し、まずは地域住民に防災活動へ参加してもらい、防災への関心を高めてもらうことが必要**
- **参加した住民に積極的に声をかけ、地域防災活動への継続的な参加・協力を促す**

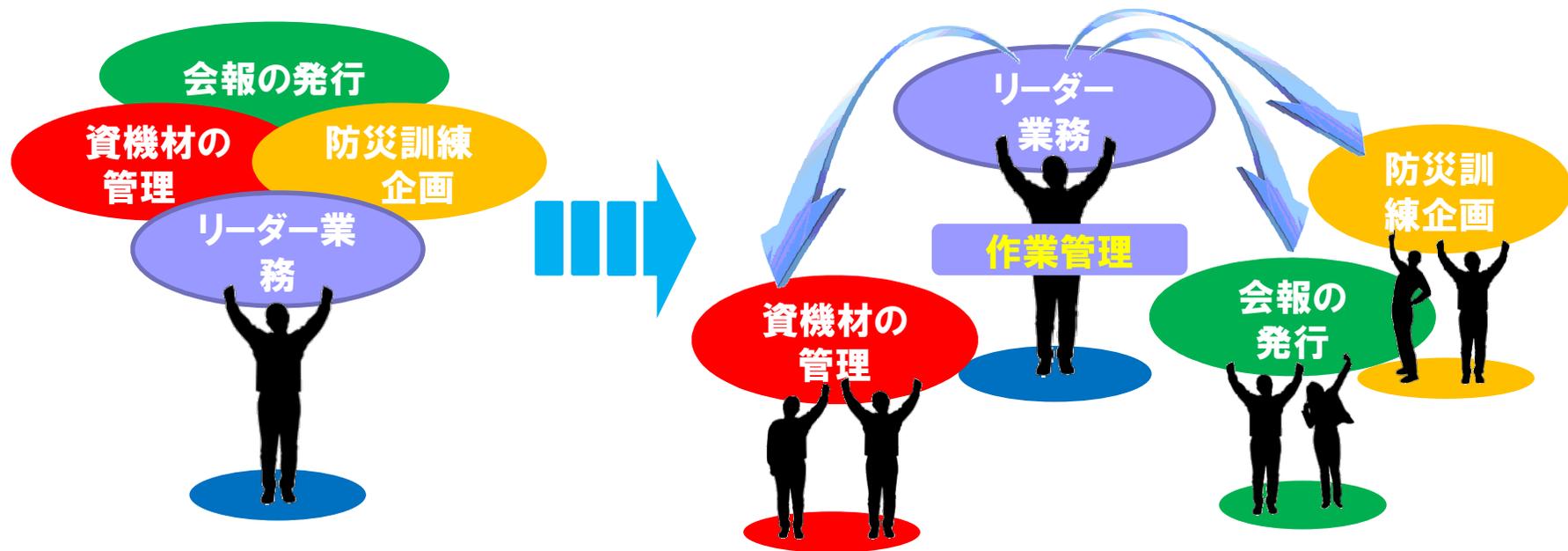


こうしたことを繰り返し、地域の防災活動の必要性を理解し、活動してくれる住民を多く育成

リーダーシップをとるコツ⑥

● 他人に積極的に任せる

- ✓ 任せた作業の進捗などの管理はしっかり行う
- ✓ 役割分担する際は、責任と権限を与える



こうして育成した人材から、次の世代の地域防災リーダーの候補を見つけることも重要！

Work Two

チェックリスト「リーダーシップをとるコツ」

①リーダーという立場を最大限利用しよう

- リーダーという自覚はありますか？
- リーダーという立場を利用する具体策はありますか？

②楽しく活動しよう

- 活用できる地域のイベントはありますか？
- 楽しく防災訓練を実施する具体策はありますか？

③仲間(3人程度の協力者)を作ろう

- 協力してくれる仲間が見つかりますか？

④地域住民とコミュニケーションを図ろう

- 「顔」を売れる地域のイベントはありますか？
- 地域の人的ネットワークが広げられそうですか？

⑤地域防災に参加する人を育てよう

- 地域住民に積極的に声をかけられますか？
- 防災活動に積極的に参加してくれる人がいますか？

⑥役割を分担しよう

- 役割分担を積極的にできますか？

平常時にリーダーが率先すべき活動

- ① 住んでいる地域の理解
- ② 自助の推進
- ③ 情報の収集・伝達のしくみづくり
- ④ 防災訓練やイベントの実施
- ⑤ 避難所運営体制づくり
- ⑥ 要配慮者支援体制づくり
- ⑦ 関係機関との連携
- ⑧ 受援力の強化

住んでいる地域への理解

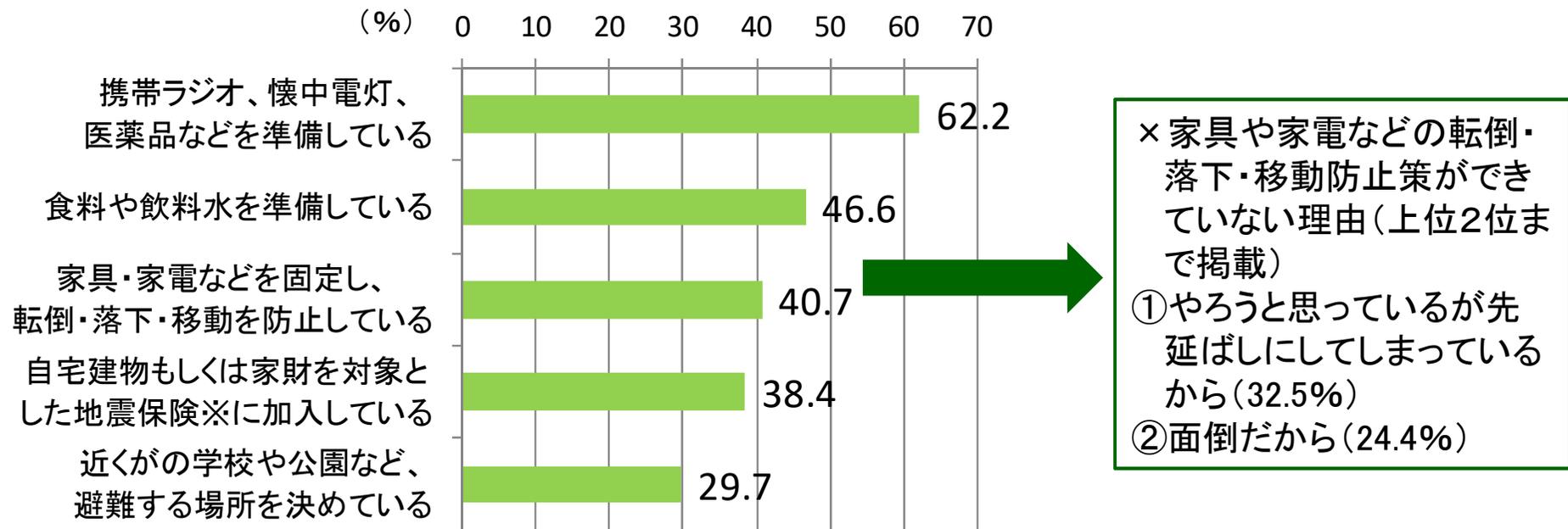
※みなさんの組織を思い浮かべて考えてください。

- **みなさんの組織では、住んでいる地域をどれだけ知っていますか？**
- **防災マップはありますか？掲載している情報は古くないですか？**
- **地域を理解するために、どんなことから始めたらいいと思いますか？**

自助の推進

● 自助の推進状況(世論調査の結果から)

- ✓ 災害についての家族などとの話し合い：約6割「ある」
- ✓ 大地震に備えての対策（複数回答、実施割合が25%以上のみ）



決して自助の取り組みが十分とはいえない。
しかし、働きかけがあれば向上する余地はある。

自助の推進

● 「共助」から見た「自助」の重要性

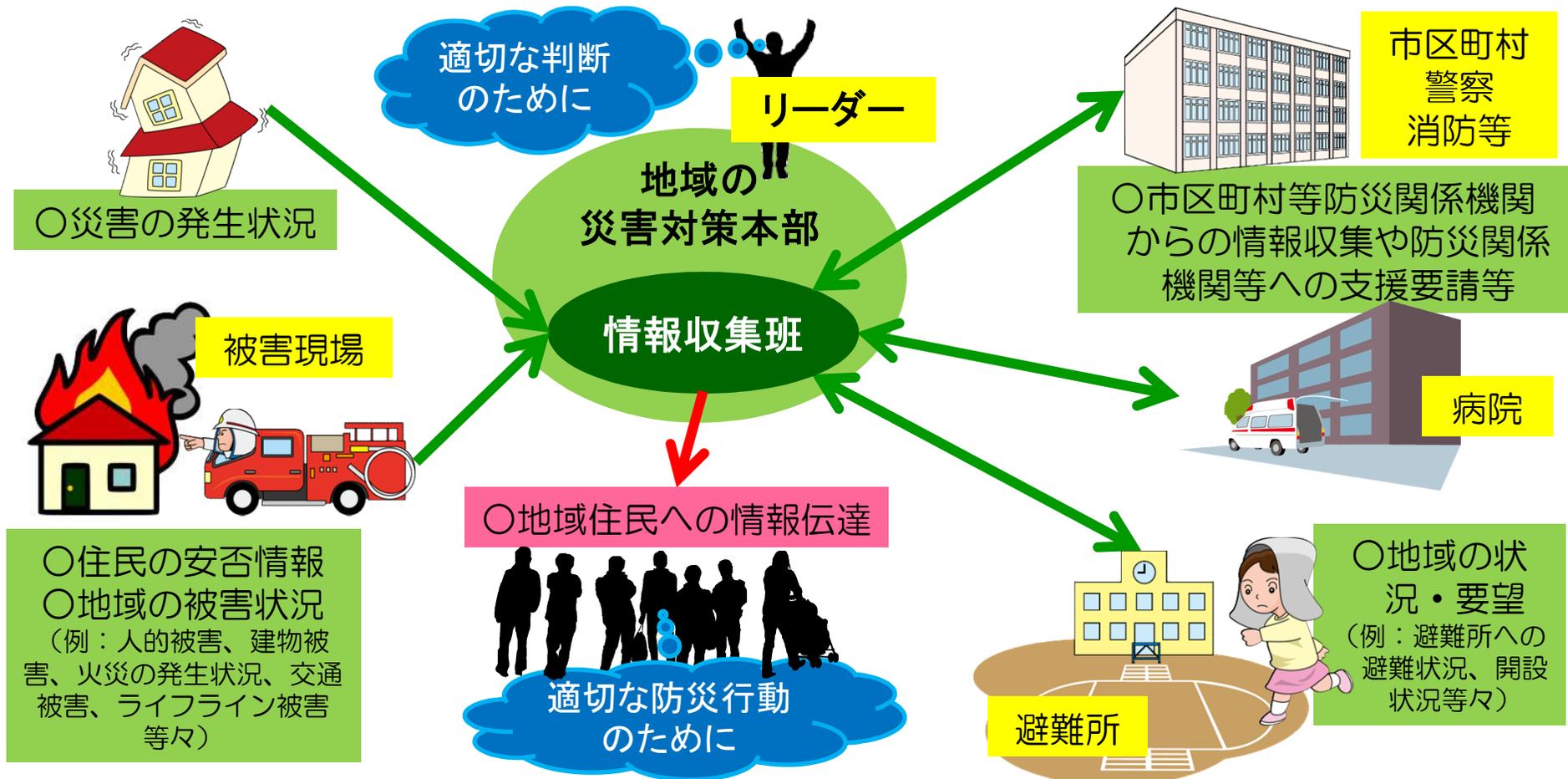
- ✓ 自助により、個々の被害が防止されることで、地域全体で見たときの被害の総量も減少する
- ✓ 自助により、被害を受けず無事だった住民は、他の被災した住民を助ける力になる（地域の防災力が大きくなる）



地域防災リーダーとして、地域住民に対して自助の重要性を周知し、意識を変えることで、その取り組みを促進することが重要

災害情報・伝達のしくみづくり

- 災害時にリーダーが適切な判断をしたり、住民が適切な行動をしたりするためには、より正確な「情報」を迅速に収集・発信伝達する「しくみ」づくりが重要である



防災訓練やイベントの実施

- **地域の防災力を高めるためには、防災訓練やイベントを実施していくことが極めて重要！**
- **みなさんの地域の防災組織では、どのようなことを鍛えたいですか？**
 - ✓ みなさんの地域の事情や地域の防災力に応じて訓練やイベントを実施しましょう
 - ✓ 様々な種類の訓練やイベントがあるので、地域の防災力の「何を」「いつまでに」「どこまで」強化したいのかよく考えましょう
 - ✓ 外部からの適切な指導や助言を得ることも検討しましょう

防災訓練やイベントの実施

例：地域の初期消火の能力を強化したい！

基本的な技能訓練

・バケツリレー訓練



・消火器取扱訓練

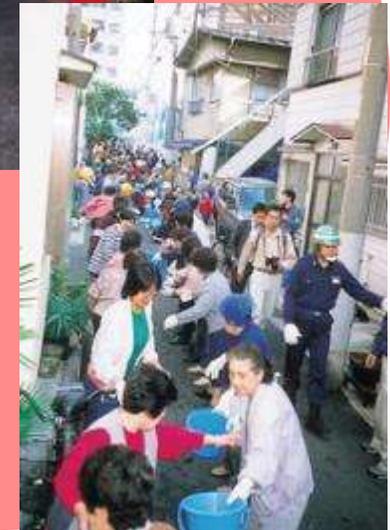
訓練内容も
より高度に、
実践的にしていく

災害時を想定した訓練

まちなかでの訓練



シナリオレス訓練



防災訓練やイベントの実施

地域を防災的な視点から点検し、防災マップを作製

**防災
まち歩き**

防災クイズに答えながら街中を歩き、地域の防災について学ぶ

**防災ウォーク
ラリー**

実際の街中を会場として防災訓練を実施する

**まちなか
訓練**

担架による荷物運び競争や土のうづくり競争など、「防災」の視点を取り入れた運動会

**防災
運動会**

災害時に発生する様々な問題について検討しあう

**クロス
ロード**

**DIG(災害
図上訓練)**

想定した災害について、地図上で災害対応について話し合う

**本部運営
訓練**

**避難
訓練**

**炊き出し
訓練**

**給水
訓練**

**HUG
(避難所
運営ゲーム)**

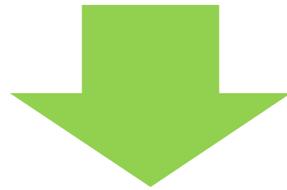
**避難所
運営・
宿泊訓練**

他の訓練現場を見学することで、訓練の準備や進め方などの理解が深まります

防災訓練やイベントの実施

● 訓練における「失敗」の必要性(重要)

- 訓練の中での「失敗」は、次の活動への教訓
- 訓練のやりっぱなしが一番ダメ

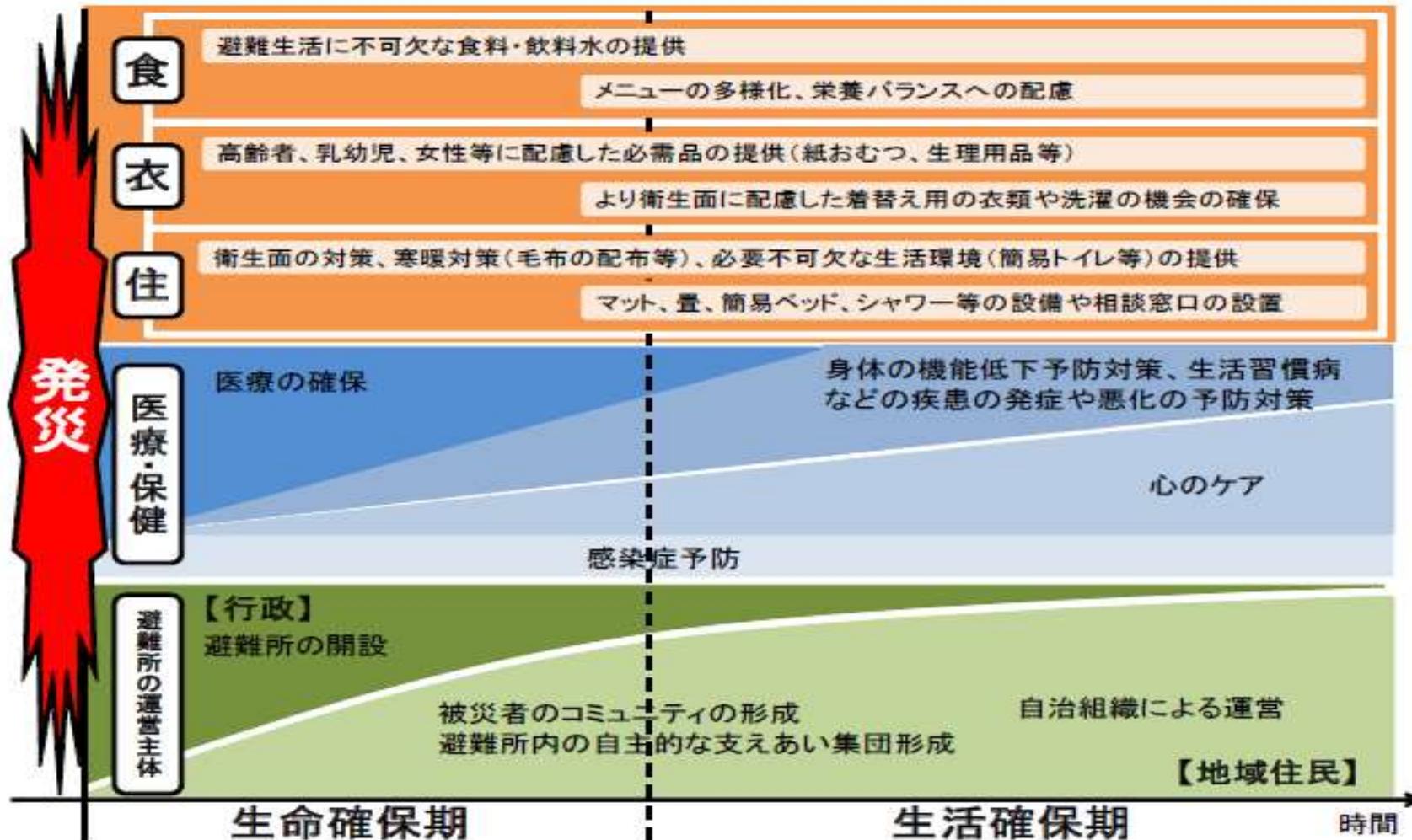


訓練計画自体に速やかな「ふりかえり」までを含めておく

避難所運営体制づくり

● 避難所運営において重要となる事項

＜避難所におけるフェーズごとに重要となる事項＞



避難所運営体制づくり

● 災害時の避難所運営は「共助」が大きな役割を果たす

- ✓ 東日本大震災では...
 - その日の夜から避難所運営が始まった
 - 外部と孤立し、行政の支援が受けられない地域が多かった



● 平常時に避難所運営の体制づくりを準備する

- ✓ 避難所運営体制づくりの手順
 - ①避難所運営のための関係者（機関）を交えた体制づくり
 - ②避難所運営計画・運営マニュアルの策定
 - ③避難所運営訓練での実践

多様な
主体の
参画！

避難所運営訓練の様子



○一時集合場所から
避難所への誘導



○避難所間仕切り組立



○炊き出しの準備



○避難所名簿作成（受付）

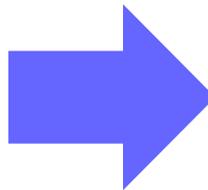


○宿泊体験



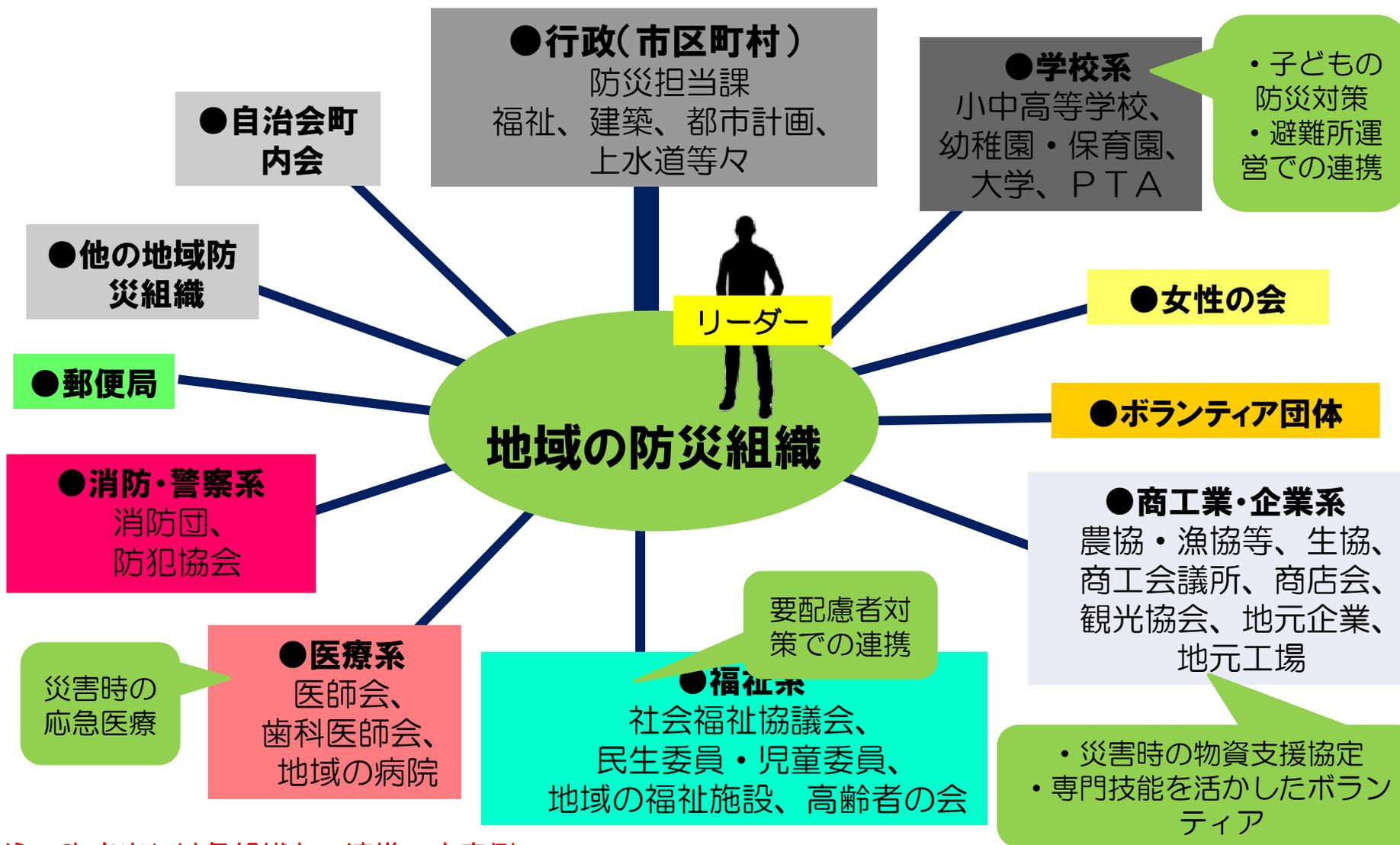
○地域の被害状況
イメージ訓練の実施

コロナ化における避難所



関係機関との連携

- これまでの活動を実践するために、これらの機関との連携が必要



注：吹き出しは各組織との連携の内容例

受援力の強化

● 「受援力」とは：「支援を受ける力」

受援力の事例

◆東日本大震災における地域へのボランティア活動

● 地域へのボランティアの活動

- ✓ ボランティアセンターが仲介し、様々なボランティア活動が地域で実施された



食器の泥おとし



がれき撤去



イベント（足湯）

受援力の強化

- **リーダーとして平常時に実施しておくこと**
 - ✓ 「よそ者の世話にならない」という意識を改革！
- **平常時に、地域で準備しておくこと**
 - ✓ 土地勘のないボランティアにも利用できるように、地域の情報を整理する（防災マップ等）
 - ✓ 地域の災害ボランティアセンター設置訓練に参加して、一連の活動を知る
 - ✓ 災害時にお手伝いしてもらえる相手を知っておく（地域の市区町村、社会福祉協議会、自治会・町内会、民生委員・児童委員など）

Work Three

「明日からの取り組み」の検討

あなたは、どんなリーダーになりたいですか？

目標を達成するために明日から何に取り組めますか？



さあ、明日から始めましょう！

Let's Try